

2022年10月31日

第10回 全国外大連携プログラム

通訳ボランティア 育成セミナー

～ことばの先にある笑顔と平和。
学んだ語学を誰かのために～

報告書

主催

全国外大連合

開催日程

2022年9月7日(水)～9日(金)

開催場所

オンライン開催(神田外語大学より配信)

目次

1. セミナー概要	・・・p.3
1-1 大学別の事前申込者数と受講者数	
1-2 学年別受講者数	
1-3 対応可能言語	
1-4 第1回～第10回までの受講者数推移	
1-5 大学別の人材バンク登録者数	
2. 学生の参加動機	・・・p. 5
2-1 参加目的	
2-2 参加へのきっかけ	
3. 参加後の自己評価	・・・p. 6
アンケートによる集計	
4. 各講義内容について	・・・p. 9
講義名	
講師名	
参加者課題『講義レポート』より	
5. セミナーの様子(写真)	・・・p. 16

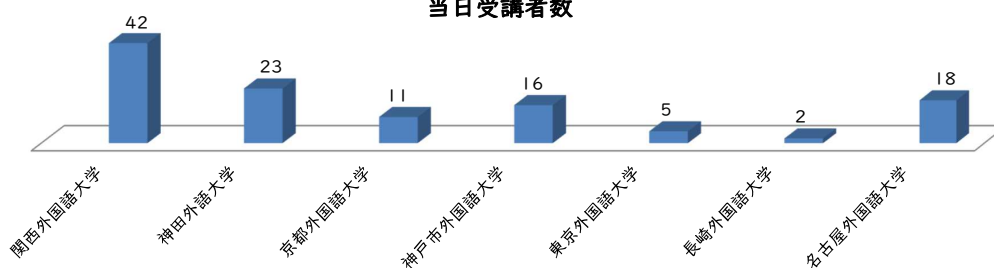
1. セミナー概要

1-1 大学別の仮申込者数と受講者数

単位:人

大学名	募集枠 (英語)	当日受講者数	バンク登録者数
関西外国語大学	150 (当初の定員)	42	23
神田外国語大学		23	17
京都外国語大学		11	7
神戸市外国語大学		16	9
東京外国語大学		5	2
長崎外国語大学		2	0
名古屋外国語大学		18	6
合計	150	117	64

当日受講者数

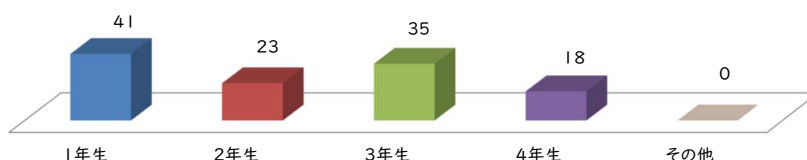


単位:人

1-2 学年別受講者数

大学名	1年生	2年生	3年生	4年生	その他	大学別計
関西外国語大学	17	6	11	8		42
神田外国語大学	9	6	8	0		23
京都外国語大学	3	3	4	1		11
神戸市外国語大学	7	1	6	2		16
東京外国語大学	2	1	0	2		5
長崎外国語大学	0	1	0	1		2
名古屋外国語大学	3	5	6	4		18
学年別計	41	23	35	18	0	117

学年別受講者数



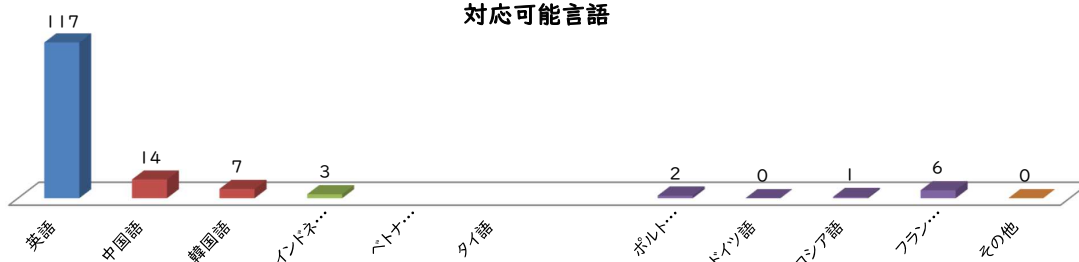
1-3 対応可能言語

単位:人

英語	中国語	韓国語	インドネシア語	ベトナム語	タイ語
117	14	7	3		
スペイン語	ポルトガル語	ドイツ語	ロシア語	フランス語	その他
14	2		1	6	0

※受講者の対応可能言語内訳を示す。

対応可能言語



1-4 第1回～第10回までの受講者数推移

単位:人

大学名	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	各大学 総受講者数
関西外国語大学	27	24	29	46	34	24	28	84	44	42	382
神田外国語大学	119	120	220	17	221	324	121	97	30	23	1292
京都外国語大学	27	21	54	60	55	24	36	27	17	11	332
神戸市外国語大学	9	4	5	8	0	3	3	20	8	16	76
東京外国語大学	6	1	0	0	4	0	0	0	0	5	16
長崎外国語大学	21	13	29	11	22	26	9	11	14	2	158
名古屋外国語大学	27	14	30	36	20	23	10	45	34	18	257
回毎の受講者数	236	197	367	178	356	424	207	284	147	117	2513
受講者数推移(延べ数)	236	433	800	978	1334	1758	1965	2249	2396	2513	

1-5 大学別の人材バンク登録者数(第1～9回開催分総計)

単位:人

大学名	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	各大学 総登録者数
関西外国語大学	27	24	29	39	33	22	22	72	31	23	322
神田外国語大学	106	111	204	4	159	281	90	80	21	17	1073
京都外国語大学	27	21	53	47	49	23	25	25	11	7	288
神戸市外国語大学	9	4	5	6	0	3	3	18	6	9	63
東京外国語大学	4	1	0	0	4	0	0	0	0	2	11
長崎外国語大学	20	13	25	6	18	25	6	6	9	0	128
名古屋外国語大学	26	14	30	24	19	23	10	41	25	6	218
回毎の登録者数	219	188	346	126	282	377	156	242	103	64	2103
登録者数推移(延べ数)	219	407	753	879	1161	1538	1694	1936	2039	2103	

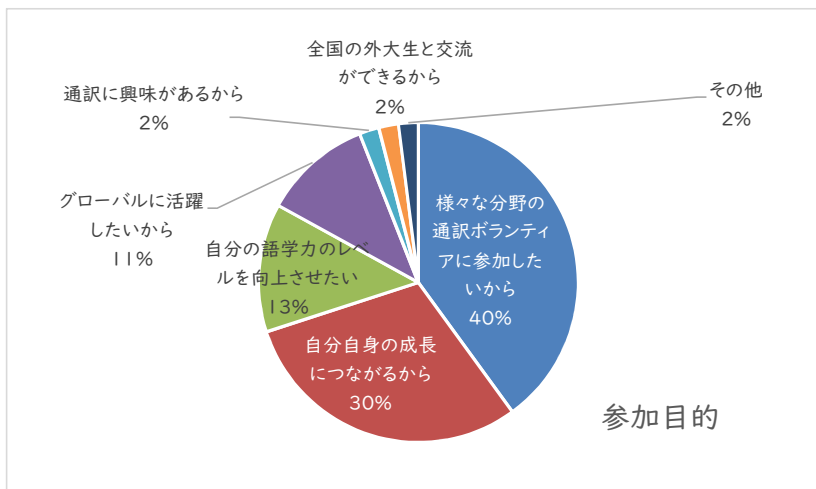
2. 学生の参加動機

2-1 参加目的

単位:人

参加目的	回答数
様々な分野の通訳ボランティアに参加したいから	40
自分自身の成長につながるから	30
自分の語学力のレベルを向上させたい	13
グローバルに活躍したいから	11
通訳に興味があるから	2
全国の外大生と交流ができるから	2
その他	2

回答者数:100人

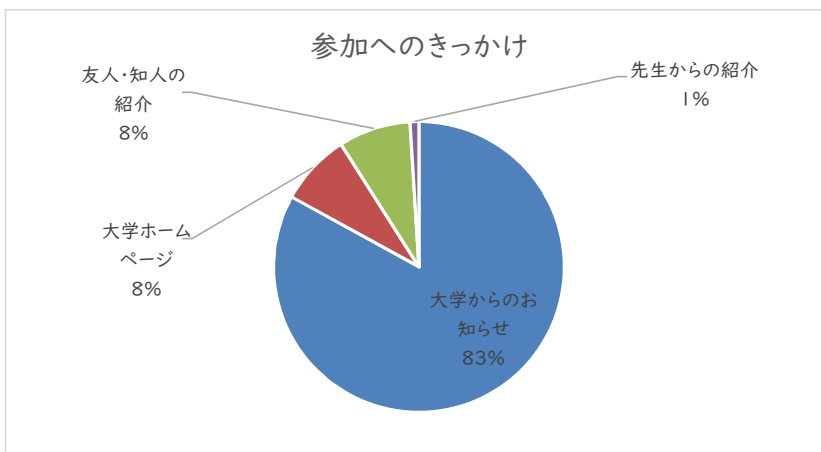


2-2 参加へのきっかけ

単位:人

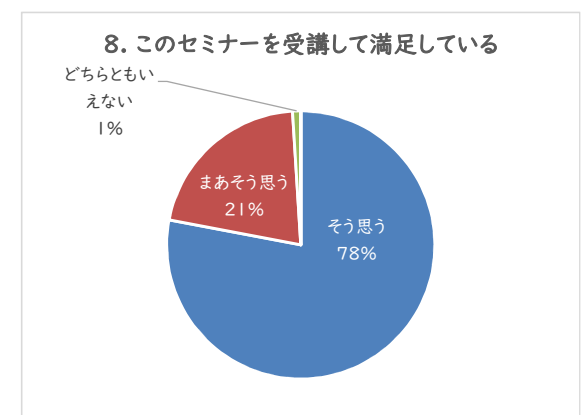
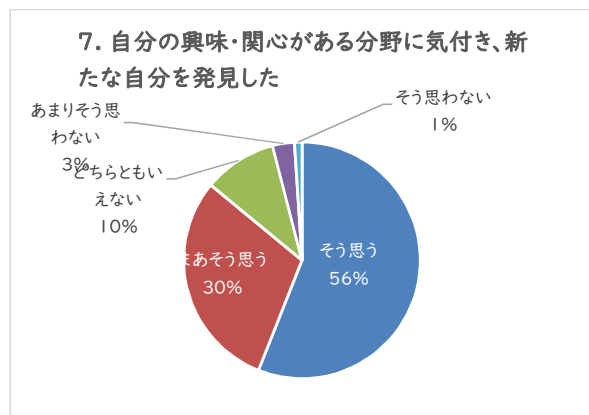
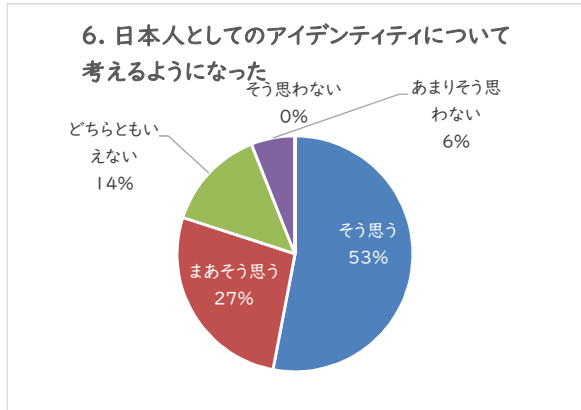
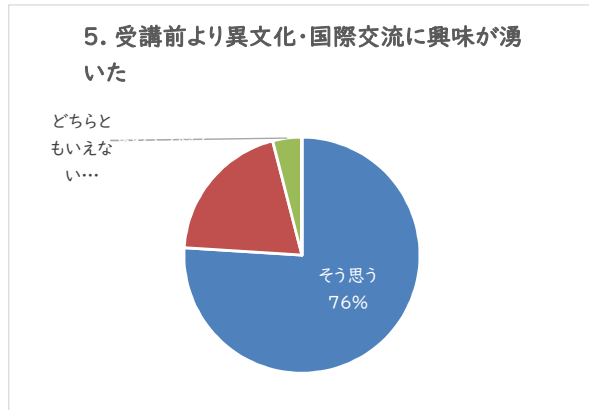
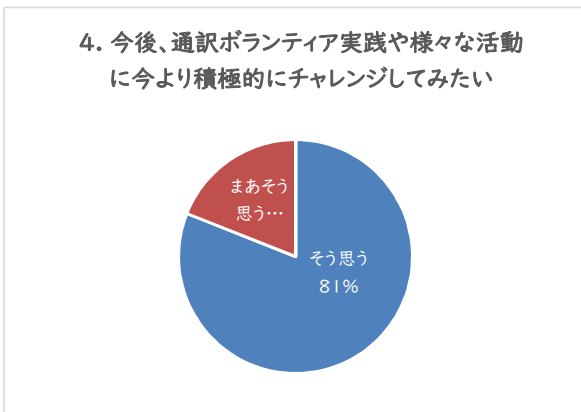
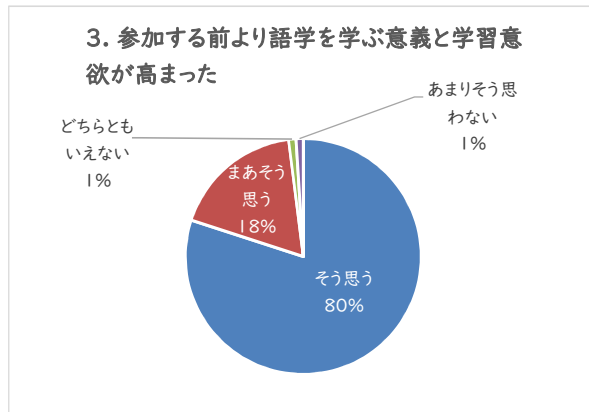
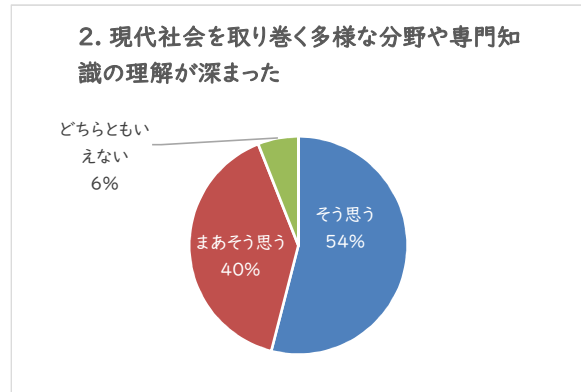
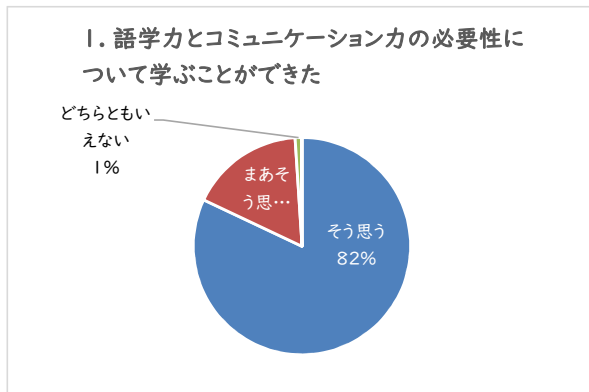
参加へのきっかけ	回答数
大学からのお知らせ	83
大学ホームページ	8
友人・知人の紹介	8
先生からの紹介	1

回答者数:100人



3. 参加後の自己評価 — アンケートによる集計(単位:人)

回答者数: 100人



9. 『このセミナーを通してのご感想やご要望、ご質問、運営についてお気づきの点等ご記入ください。』への回答内容

回答内容	回答件数
有意義な3日間だった、楽しく学べた、貴重な時間、満足	13
新たな気づきがあった、刺激があった、視野が広がった	10
ボランティアに興味、意欲がわいた、モチベーションが上がった	8
普段関わることのない方の講義や経験ができた	5
語学のモチベーションが上がった	3
学生生活、キャリアなど今後活かしたい	3
次回は対面、実地開催してほしい	2
グローバルに活躍できるよう努めたい	2
将来について考える良い機会となった	2
様々な外大生との交流が深まった	2
実践・実用的な講義や通訳の実践演習等がほしい	1
ブレイクアウトセッションがもっとほしい	1
オンラインによるセミナーが良かった、オンラインにより参加しやすかった	1
また通訳ボランティア育成セミナーに参加したい	1
他大学の学生ともっと交流したい	1

回答件数合計:55

※上記「回答内容」に当てはまる回答を「回答件数」としてカウント。

※『このセミナーを通してのご感想やご要望、ご質問、運営についてお気づきの点等ご記入ください。』への回答を上記項目に集約。

10. 受講生のまとめレポートハイライト

- ▶ 講義はどれも自分の興味のある分野で、内容もとてもおもしろく、しっかりとメモを取りながら参加した。
- ▶ 同じような志を持つ仲間たちにセミナーを通して出会えたことも嬉しかった。
- ▶ 今回のセミナーを通して、通訳ボランティアとしての大切なことはもちろん、ボランティア以外でも大切なことを学べた。
- ▶ 必要な英語力はもちろん、1歩を踏み出す勇氣や、自分の知らないことを知ることなど、自分の課題について多く気付くことが出来ました。
- ▶ セミナーを受講し終わった今、自分の現状と、それにとまなう今後の課題を明確化することができたと考えている。
- ▶ 一度でもチャンスを逃せば二度と同じ活動ができないということを頭に入れて、ときには考える前に行動してしまうのも重要だとわかった。

11. 今後の展望について

- ▶ 講義を通して自分が夢のためにすべきことが明確にわかりました。
- ▶ 挑戦することやおもてなしの重要性を学んだので、通訳ボランティア以外の場面でも、今後就職活動や日常生活で生かしていきたい。
- ▶ 自分の成果としてはボランティアや通訳についての基礎知識を得た事、さらにはそれを通して自分のキャリアについて見つめ直すこと
- ▶ これから様々なことに意欲的に取り組み、自発的に参加し、人脈を広げ、自分の目標像、夢に近づいていきたい。
- ▶ 今回通訳ボランティアの経験談や成長したことを聞いて興味だったものが明確になり、実際に通訳ボランティアとして働いてみたいとい
- ▶ 日常面においては、その時の自分にできることを目の前の人に提供できるように、日々自分自身を磨きたい。困っている人がいれば、自
- ▶ 同年代の学生から刺激を貰ったので、今までの勉強法を見直しこれからの語学力向上にも繋げていけたらと思っています。
- ▶ 大学にいる間に一度は留学して自分の目で外国の世界を見てみたい。
- ▶ たくさんのことにチャレンジし、多くの人と関わる機会を増やしたいです。
- ▶ 自身の語学力にあまり自信がないのですが、まずは日本語で参加できるボランティアから経験してみたいと前向きに考えられるようになりました。

4. 各講義内容について

9/7(水)	語学を活かしたボランティア活動 ～ウクライナ避難民支援活動での経験から学んだこと～
講演者	日本財団ボランティアセンター

参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ・実際の経験談から、自発的に行動することの大切さや臨機応変に対応する能力が国際ボランティアには特に求められることがよく理解することができました。支援する側と支援される側という関係性ではなく、あくまでも対等な人間同士であるという考えでなければいけないという言葉が印象的でした。ボランティアの中で対等な人間関係を築き上げることも大切であることがわかりました。
(関西外国語大学 4年)
- ・実際にボランティアをした学生からの体験談を聞く機会はあまり無いので、とても貴重でした。ボランティアは具体的に何をしたのかを写真付きで教えて頂き、ボランティアに申し込む上での不安が減りました。とにかく自分から行動しないと仕事を得られない、積極性が重要だとわかりました。この講義で得た知識をこれからの自身のボランティア活動に反映していこうと思います。
(関西外国語大学 3年)
- ・実際にウクライナでボランティア活動の経験をした太田さんと丸山さんの話を聞いたのはとても貴重な事だとまず初めに感じました。ニュースや新聞で見たり聞いたりするのも勿論大事な事だけれど、実際に現地に向かい自分の目で確かめる事はそれ以上に大切という事がわかりました。実際に経験をされたお二人からは、ボランティアをする上で大切だと感じた事、現地の様子、通訳ボランティアの必要性など様々なお話を聞きました。指示が出ないから自分から積極的に動かないといけない、分からない事を認める大切さ、言葉だけでなく文化も知れる、言語の壁など、実際に経験して分かった厳しさや良さも知れました。
(神田外語大学 2年)
- ・現在、新聞やニュースなどで取り上げられているウクライナの問題に関して、そのニュースを見ているだけではなく、実際に自分にできることは何かということを通じた現地での活動をしたという点に、同じ大学生として感銘を受けた。
(京都外国語大学 3年)
- ・ウクライナ避難民支援活動を実際に行った学生さんのお話を聞き、支援活動を行う上で大変だったことや具体的な支援活動の内容を学んだ。支援活動を実施する中で嬉しかったことだけでなく、つらかったことや気持ちが暗くなったことも聞くことができ、支援活動についてよく知ることができた。自分が海外で支援活動を行う時に気を付けることやその活動をしているかもしれない自分の姿を想像することができた。
(神戸市外国語大学 1年)
- ・実際にウクライナでボランティアをされた方から、貴重なお話を聞くことが出来た。ボランティア活動中は、自分で仕事や問題点を見つけ積極的に動くことが必要となるため、状況判断能力、勇気、臨機応変に対応する力が重要だと学んだ。また夜勤をすることもあるという話を聞き、ボランティアは体力や体調管理も求められる厳しい場であると改めて理解した。
(東京外国語大学 1年)
- ・ウクライナ避難民支援活動で実際に活動されていた方々のお話を聞いて、人を巻き込む力やその度胸にとっても感動しました。避難民支援のボランティアをしたことがないので、どんなものなのか全く知らなかったのですが、言語を超えた異文化交流や実際の国の状況を見てリアルな世界情勢を知ることはとても大切だなと思いました。また、実際にボランティアをしていた皆さんを見て、積極性や状況判断能力の高さにすごく刺激を受けました。自分から動くことの大切さ、またウクライナの深刻な現状についても知ることが出来てとてもためになりました。
(名古屋外国語大学 3年)
- ・今までテレビやYouTubeなどのメディアでしか目にすることがなかったウクライナの現状を、実際に現地に行った方々から話を聞くことでメディアには映っていない出来事を知ることができました。自分たちでポスターを作成してゴミのポイ捨て防止を目指したことや、この経験を多くの方に知ってもらうためのSNSでの発信を行っていることを知り、自ら行動することの大切さを学びました。
(名古屋外国語大学 1年)

9/7(水)	シンポジウム「ラグビーWC2019、東京2020大会がもたらしたレガシー」
講師	神田外語大学ボランティアセンター 客員教授 徳増浩司 神田外語大学ボランティアセンター 客員教授 真田 久 EYストラテジー・安堵・コンサルティング株式会社 神野 幹也 神田外語大学 卒業生 佐藤 加奈恵

参加者課題『講義レポート』より	※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります
<p>・この講義では、「おもてなし」と「ホスピタリティ」の違いについて深く考える講義となりました。ホスピタリティは広く一律に提供されるものであり、おもてなしは個々にそれぞれ提供されるものであると学びました。そんな中、ボランティアはどの立場に位置しているのか、またオリンピックでのボランティアはあまりメディアで報道されない分野でもあり、興味深い講義でありました。登壇者のお話の中で、オリンピックのボランティアは”やりがい搾取?” “ブラックボランティア”といわれていると知って、聞いたときは悲しい気持ちになりましたが、いい意味で表で話題にされない、いわばボランティアの不透明性がこのような表現にマイナスな意味で繋がったのではないかと考えました。しかし、お話の中で、オリンピックボランティアはオリンピックの”非日常空間・体験”づくりのお手伝いをするサポーターであると聞いて、その場の空間を作る、何より選手観客が一体となる会場を作り上げるうえで、ボランティアは陰で支えておる縁の下の力持ちのような存在であり、その空間が作り上げられていることこそが、ボランティアの方たちが協力してくださっているからなんだと実感しました。</p> <p>(関西外国語大学 3年)</p> <p>・徳増先生がおっしゃっていた、「チャンスを生かすか生かさないかで人生が変わる。小さなことでもやってみる。」という言葉が印象に残りました。私は何かをやるかやらないかを悩んだ結果やらないと決めることが多いので、これからはこれらの言葉を思い出して悩まずにやると決めてこれがチャンスだと思って全力でそのことをやりたいです。</p> <p>(神田外語大学 1年)</p> <p>・ホスピタリティは広く一律に行う一方、おもてなしは個々へ行くものである。大会を形成する顔となる存在であり、選手を含め他者から見ると自分達も運営サイドである。だからこそ、英語力がすべてとしてあるわけではないが主体性を持つことが必要である。この主体性がないと、ゲストが得ることの出来るものが得られなくなってしまう。</p> <p>日本人が持っているとおもてなし精神こそが大規模な国際的イベントで大事なものとなる為、自分から動いていきつつ、相手のことを観察したうえで丁寧な気持ちを持ったうえで接していきたいと感じた。</p> <p>(京都外国語大学 1年)</p> <p>広く全体へのホスピタリティよりも、個々人へのおもてなしが大切という考えを聞いて納得した。各来場者はボランティア全体を気に留めることはそこまで多くないであろうし、印象に残る機会があるとすれば個々人で受けた親切やガイドによるものだというのは納得がいくからだ。またスポーツの場におけるボランティアは、他の通訳ボランティアと異なるという意見は、今まで全く持っていなかった視点で、スポーツボランティアには全く興味がなかったが参加するのも悪くないかなど考えるようになった。また神野さんの解説は、理論にしっかり裏打ちされていながらも分かりやすい解説で聞きごたえがあった。ボランティアにおける、知らない人との共創関係というのは他の様々なことに活かせると思うので、よりボランティアに関与すべきだと思うようになった。</p> <p>(神戸市外国語大学 3年)</p> <p>・この講義で、ボランティアとしての活動は、自分の行動次第で多彩なものになるのだと思った。オリンピックの行列の中、ボランティアの方が楽器を弾いて、観客の誘導だけでなく、観客たちの気持ちを高め、より試合を盛り上げるきっかけづくりをしていた。普通であれば、観客の誘導にはただ声を出すだけで良いと思ってしまうが、少しの発想でその場の雰囲気の良い方向に変えることができるのだと思った。このように、ボランティアはただテンプレ通りに動くだけでは、足りない。自分で考え、行動することがより良い環境を作り、やりがいも生まれるのだと感じた。公務員を辞め、ボランティア活動に活動の重きを変えた神野さんや、通訳ボランティアを多く経験した佐藤さんの話を聞いて、スポーツボランティアを通して得た経験は、今もなお心に残り続けるレガシーであると改めて感じた。</p> <p>(長崎外国語大学 4年)</p> <p>・佐藤さんの東京2020大会でのボランティア経験が一番印象的だった。特に、選手達のスポーツ用品の受け渡しなど、自分が想像していたボランティアの方々がやることとは違い、実際の経験を聞いてボランティアと言っても様々な役割が存在することを学んだ。また、選手から見るとボランティアの方々も運営側として捉えられることから、自分のボランティア活動の範囲外の質問をされることなど、予想外のことが起きる可能性があることを知った。お手洗いの場所をよく聞かれるので、事前にお手洗いの場所を確認するようにしていると佐藤さんから聞き、様々な配慮をする必要があること、また、ボランティア後は気配りなど人間として成長できるというお話を聞き、そういった側面もあるのだと感じた。私もボランティアをする際には参考にしたいなと思った。</p> <p>(名古屋外国語大学 3年)</p>	

9/7(水)	より良い共存社会の実現に向けて ～SDGsの本質と達成への課題～
講師	<p>神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部 教授 石井 雅章</p>

参加者課題『講義レポート』より	※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります
<p>・SDGsに関しては大学でも学んだことがあったためある程度のことは知っていましたが、SDGsというものは当たり前だがこれまでに達成したことのない目標を掲げているものであり、後にこういう世界であってほしいというビジョンを掲げてそれに向かって今取り組まなければならないことが目標になっていると分かりました。また、SDGsを達成する中で今生きている誰かが不幸になったり、将来生まれてくる子供たちが生きづらくなったりしてはいけない、全ての人の利益を考えた上でより良い世界になっていなければならないと改めて思い知らされました。</p> <p>(関西外国語大学 4年)</p> <p>・石井先生の講義ではSDGsの正しい理解とこれからの世界について学んだ。SDGsの目標設定は2030年にされており、今から8年後の行動計画が示されている。私の感じる8年は長いと感じているとすぐに来てしまうので少しでも国内や世界の環境に目を向けることをしなければならぬと感じた。</p> <p>(神田外語大学 3年)</p> <p>・SDGsが掲げられる現代において、私たちには持続可能な世界の担い手として多様な人々とともに生涯学び続ける姿勢が求められていると分かった。このような姿勢とSDGsの17の目標の先にある169のターゲットや231のインディケーターを組み合わせることにより、人間は科学技術を基盤に環境に配慮しながら自然と共存し、学校という教育現場を離れても仕事や家庭などから生涯学び続け成長することで一人一人が豊かで満たされた生活を送ることができる。17の目標の先にある小さな指標を大切にしていける必要があると感じた。</p> <p>(京都外国語大学 3年)</p> <p>・この講義では、SDGsの各ゴールについてだけでなく、それらがどういふ社会を目指して作られたものであるか、ということを含めて学んだ。私はSDGsの17のゴールは知っていたものの、それらが段階的に達成される目標であるということや、そもそもどういふ風に作られたのかということには知らなかった。就職活動においても、17のゴールのうちのどれか数個があるから大丈夫!といった企業が散見されたが、そういった各ゴールをただ当てはめるのではなく、そこからステークホルダーとの関係を捉え直しなりたい像に向かって変革を起こしていくことが大切であると学んだ。SDGsは果てしなく、また難しい話でもあるのでどうしても上辺の対策になりやすいが、そうではなく真にどうすればいいのか考えて行動していくことが大切であると感じた。</p> <p>(神戸市外国語大学 4年)</p> <p>・17のゴールばかり見ていませんが、という石井さんのお言葉がとても心に残っています。実際私はSDGsという17の目標があってそれを2030年までに実現するために各国が動いているのだろうとぼんやり思っていました。しかしこの講義を聞いて、17のゴールの具体的な指標を意識する必要があることに気付かされました。目標を達成するための指標についてほとんど目にとめたことがなかったため、自分で調べてみようと思います。また、SDGsが持続可能な世界からのバックカスティングにより生まれたもので、現在の持続不可能な地球の状態を変革するための取り組みだということも初めて知ったことでした。新しい知識や情報をたくさん得ることができ、とてもためになる講義でした。</p> <p>(東京外国語大学 2年)</p> <p>・私は昨年、あるプレゼンテーション大会に出場し、「SDGsは日常生活で簡単に取り組めるものである」と聴衆に訴えました。その際に私は、「汚れたお皿などは新聞紙等で汚れを拭き取ってから洗い流すことで、水質汚染を防ごう」「白熱電球をLED電球に変えて、二酸化炭素排出量を減らそう」と具体例を示しました。しかしこの時は17の目標しか見ておらず、169のターゲットまでは意識していませんでした。その結果、その行動が具体的にSDGsの何番のどのターゲットの達成に貢献できるのかが分からなかったため、説得力にやや乏しいプレゼンになってしまいました。しかしこの講座を通して、SDGsを考えると、単に17の目標だけではなく、169のターゲットまで考える必要があることを学びました。そのうえで、SDGsは持続可能な社会の実現という大きな目標の達成のための過程に過ぎないが、それでも私たち一人一人が取り組む必要があるものである、ということを理解しました。これからは、もう一度17の目標それぞれに定められた169のターゲットが何なのか、SDGsの前文をもう一度見返して、何のためにあるのかを理解する時間を取りたいです。その上で、今後も私は日常生活の中でSDGsの達成に向けて取り組んでいきます。</p> <p>(名古屋外国語大学)</p>	

9/8(木)	通訳概論と技法
講師	神田外語大学国際コミュニケーション学科長・教授 小坂 貴志

参加者課題『講義レポート』より ※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ・同時通訳と逐次通訳について学びました。通訳にも種類があるのだと初めて知り、図でよく理解することができました。また、グループになって英語話者、日本語話者、通訳者でゲームをした際に通訳者の解釈次第で全てが決まるのだと思いました。私は、今回通訳者の役をしていますが、大学名や学科名を日本語から英語に訳すだけでも知らないと言えないため、難しい役割だと感じました。実際に他大学の生徒の英語を聞く機会はなかなかなかったのでとてもスラスラと英語に通訳していて感銘を受けました。何度も同じグループで話すうちに少しではありますが交流を深められた気がしました。とても楽しい授業で印象に残っています。
(神田外語大学 2年)
- ・通訳をするにあたり、通訳メモを作る・用語集を作るという技法を学んだ。まずメモを取るのには、自分か訳すときに必要であり、目標言語でとることが望ましいと先生はおっしゃっていた。英語で聞いているのを日本語で伝える際に、日本語に書き直すのは大変だとは思いますが、伝えるまでの時間が短くなるため、必要である。また、自分の用語集を作ることにより、実際に通訳する時に、知識や英単語が増えている状態で通訳することになるので、明らかに通訳の質が上がるため、これも大変重要な技法だと考える。通訳にも、同時通訳と逐次通訳がある。同時通訳のほうが難しいと思っていたが、逐次通訳のほうが正確性が求められるため、より難しい。実際に自分たちで実践してみたが、難しかった。メモを取る際に、目標言語で書くことがなかなかできなかった。自分で言い換えたりしてしてしまう場合もあったので正確性には欠けていた。いい体験になった。
(京都外国語大学 2年)
- ・通訳メモは訳すときに自分が使うためのもので、人に見せるものではないことを知った。通訳には同時通訳と逐次通訳があり、英語ではそれぞれ"simultaneous interpretation"と"consecutive interpretation"という名前と呼ばれることを知り、プロにとって同時通訳よりも逐次通訳の方が難しいことを知って驚いた。授業の後半では実際に自分たちで同時通訳を行ったが、相手の話すスピードに追いつけず、上手く訳すことが出来なかったため、通訳を行う人がどれだけすごいのかを身をもって感じた。
(神戸市外国語大学 1年)
- ・一日目の講義では主に、実際ボランティアに参加された方の経験をうかがうことができたのに対して、この講義では改めて通訳概念及びその技法を学ぶことができたので、興味を持って聞くことができた。講義を聞いていた中で、通訳の仕事はその仕事範囲がとても広い職業なのだ実感した。特に、大会のサポーターや国際ボランティアとしてだけでなく、法廷での通訳も仕事に含まれるのだと知って驚き、様々な職場環境で必要とされる通訳技法を吸収しながら臨機応変に対応していくことが大切なのだと感じた。
(東京外国語大学 1年)
- ・通訳においては「メモ」をすること、そしてそのメモはできるだけ目標言語で行うことが大切であることを学びました。また通訳を実際にする際には、話者に「なりきる」ことが大切であるため、話者が「私は」と言ったら、通訳者も「I」という主語で通訳しないといけないことも分かりました。以前私はNASAの方が小中学校で講話をされた際に通訳を担当しましたが、その際は話者が男の人であったため、何度か主語を「He」にして通訳してしまったため、NASAの方を困惑させてしまいました。また、逐次通訳の演習の際にも、主語を「I」ではなく「She」で話してしまうミスをしました。今後通訳をする機会をいただいた際には、しっかり「メモ」して、常に「I」を主語にして通訳をすること、また文全体の概要をつかむ(イメージ化する)ことも意識して取り組み、更に通訳力を鍛えていきたいです。
(長崎外国語大学 4年)
- ・この講義では翻訳や通訳の基本的なことについて学びました。そして「通訳」には様々な種類があり、主に話者と通訳者がほぼ同時に訳す「同時通訳」と話者と通訳者が交互に話す「逐次通訳」に分類されることを知りました。実際にブレイクアウトルームで模擬通訳のようなものを行いました。話の内容が自己紹介がメインであったため、特に難しいとは感じませんでしたが、これが実際より専門的な会見や外交の場面だったらと想像すると、難易度が非常に高い上に、緊張感や責任感などのプレッシャーが重いに違いはないと考えました。「通訳ボランティアへのヒント」では、できないことは「できない」とはっきり言うことが大切であると仰っていました。私は友人やバイト先のパートさん達によく「負けず嫌い」だと言われます。つまりいざと言うときにプライドが邪魔して「できない」と言えないかもしれないので、この教を常に頭に入れておく必要があると思いました。
(名古屋外国語大学 2年)

9/8(木)	プロ通訳としての仕事や必要なスキル
講師	NHK, CNNなどで活躍 日英通訳・翻訳・ボイスオーバー 中曾根 俊

参加者課題『講義レポート』より ※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

・スポーツの現場での通訳は私の憧れの仕事で遠い世界だと今までは思っていたけれど、用語集を作って単語を知ったり、選手がよくケガする部位をまとめていたりと当たり前のような地道な努力があつてのキャリアだということを実際に野球チームの通訳を経験された方から聞いて、少し身近な職業というか、私も挑戦したい、頑張りたいと思うことができた。

(関西外国語大学 2年)

・いろいろな場面での通訳の仕事について知ることができ、視野が広がった。また、takeなどの多義語には数多くの意味があるため、他の単語においても好奇心を持って意味調べたいと思った。時にはフレーズそのものの意味をそのまま捉えるだけでなく、なぜそのような表現をするか文化・習慣を調べることも必要であると学んだ。5つのP(Perfect Preparation Prevents Poor Performance)は本当に良い言葉だなと思った。大学生になってからあらゆる行動が自己責任となり、課題などにおいて準備不足のまま提出になることが多かったので、この言葉を心に留めて学業などに励みたいと思った。

(神田外国語大学 2年)

・大学名などの固有名詞はネットなどで事前に調べることが通訳において大切だと学びました。特に近畿大学を英語でKinki universityではなく、Kindai universityと表記することが印象的でした。そしてスポーツによって英語で表現される方法が異なっていて、これから単語を調べる際は下の方まで全部調べてみようと思います。

(京都外国語大学 1年)

・スポーツ通訳者の講義を受けたことがなかったため、チーム付き通訳だけではなく大会通訳やメディア通訳、イベント通訳などさまざまな種類があることに驚きました。また、通訳者は独自の単語帳を持っていることは知っていましたが、実際にその単語帳を見るのは初めてだったのでとても勉強になりました。単語帳に関して驚いたのは、スポーツ用語だけではなく医療用語がたくさん含まれていたことです。上から下までびっしり単語がメモされており、中曾根さんの長年の努力をひしひしと感じました。最後に中曾根さんがおっしゃっていた「5つのP」と「3つのR」はどの職業にも通じることなので就活に生かしたいです。

(神戸市外国語大学 3年)

・通訳を職業として第一線で活躍されている中曾根先生から学んだことは、「学び続ける」と「あくなき好奇心」にあると思いました。なぜアメリカの野球実況ではこのような言い回しがされるのかという背景にまで関心を持った上で通訳をしていたことに驚きました。また、専門用語が飛び交う業界専属の通訳だからこそ、その世界の常識や知識の蓄積が求められることも強く感じました。受け身でなく、前のめりに通訳をしていく姿勢が印象的でした。

(東京外国語大学 4年)

・この講話を通して、通訳では事前準備がとても大切であることが分かりました。通訳するテーマに関連した語句の意味調べはもちろん、そのテーマでよく取り上げられる固有名詞や考え方、更には通訳する話者の文化的背景などについても調べておかなければならないことを知り、とても大変なことだな、と思いました。例えば野球解説の通訳をする際には、野球で出てくるルールや説明を英語でどう表現するのかなどについて、事前準備をしておかなければならないということが分かりました。

また、特に語句の意味調べは大切だと分かりました。普段から使い慣れており、十分知っている単語にも、実はまだ知らない意味があることを今回の講座を通して発見しました。

通訳における事前準備はとても大変で、また難しいものであることが分かりましたが、再度通訳をする機会をいただいたら、必ず事前準備をしっかりと、万全に行ってから通訳に臨むようにしたいです。

(長崎外国語大学 4年)

・通訳をする上でいかに準備が大切なのかを学びました。何十年も通訳を行なっているプロの方ならば準備なしで行なっていると甘く考えていましたが、常に勉強をすることが必要な職業だということを知り驚きと尊敬を覚えました。中曾根先生の教えてくださったことは重要なことばかりですが、調べることを怠らないというのは特に大切に感じ通訳以外の仕事についてしても大切にしていきたい考えだと思いました。私は現在アメリカに留学しているため、生活していく中でいろんな単語と出会うのですが、すでに知っている単語だと、他の意味について調べることがなかったり、文脈から判断したりしてしまう時もあります。しかし、正確なニュアンスなどを得ていくために常に調べることを意識し行動していきたいと思いました。

(名古屋外国語大学 4年)

9/8(木)	国際ボランティア活動と外国語学習
講師	<p>近畿大学 法学部 准教授 山口 朋美</p>

参加者課題『講義レポート』より ※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ・「ボランティアは授業外の学びを提供している」というのはとても納得のいく言葉だと感じた。学習を通してアイデンティティが変化していくというのは、自分の過去を振り返ってみてもその通りだと思った。また、グループワークではグループのメンバーと楽しく会話ができ、有意義な時間であった。
(関西外国語大学 3年)
- ・国際ボランティア活動と外国語学習の関係とどのように行動すれば良いのか学んだ。私は、海外でボランティア活動をしたことがないため、このお話は私が海外ボランティア活動をした場合、現在と今後の自分の活動に、どのように影響するかを想像することができた。海外ボランティアに参加するからには、それ相応の語学力はもちろん、新しく学ぶ必要があることもある。例えば、環境問題に関わるボランティアであればそれに関係する単語やフレーズを知っていなければならない。行く前からの準備は欠かせない。また、ボランティア活動という新しいコミュニティに参加することは、自分を成長させることに繋がる。幅広い世代、出身の人が参加する中で、人間関係を構築するだけでなく、自分から積極的に意見を出したり行動したりしなければいけないからだ。海外での活動は、自分の語学力を向上させる。その上、慣れない環境下で活動することで、行動力、コミュニケーション能力が身につく。この講義を書き終わって、大切なことをひと言で表すとしたら、私は「好奇心」だと思った。
(神田外国語大学 3年)
- ・外国語を学ぶ意義はいろいろあると感じる。その中には、オリンピックや万博のような国債的なイベントに参加するというのも挙げられる。私自身も、東京オリンピックや国連のフォーラムに参加したことがある。その会場では英語を使うことも多かった。自分が学んだことを使って伝わったときは、学んでいてよかったと感じ、伝わらなかつたらもっと伝わるように工夫しようというモチベーションが上がる。そのためには、日々の積み重ねが大切だと感じた。
(京都外国語大学 3年)
- ・先生の授業の中で私たちが成長するのは、あるコミュニティに参加したときであるというお話が特に印象に残りました。私自身この夏休みでそのことを実感し、通訳ボランティアという新しいコミュニティにも秋に参加することを決意しました。この授業を通して改めて相互的な学習や実践的な活動の重要性に気づくことができました。
(神戸市外国語大学 3年)
- ・国際ボランティアに参加するにあたり、ボランティア活動で学習する為の実践コミュニティを作り、参加すること、その中でルールや異なる価値観を共有することがボランティア活動を通して変化するために必要だと学んだ。そして、継続的に参加し続けることにより、学習を通して自分のアイデンティティを熟練したものへと変化させていくことが出来、その経験は将来の方向性を決めていく上でとても大切なことだと感じた。単に参加するのではなく、ボランティア活動が意義あるものとなるよう意識して参加、行動することを心掛けたと感じた。
(東京外国語大学 1年)
- ・何かのコミュニティに属し、その中で自分でアクションを起こしたり、役割を果たしたりした時に学ぶ／成長することが分かりました。具体的には、学外活動(ボランティアなど)に参加し、自分がリーダーとして他のメンバーに指示を出して円滑に物事が進むようにメンバーをサポートする、など何かしらの役割を果たし、その過程で他社とコミュニケーションを取ることが成長する／何かを学ぶきっかけになるのだと思いました。
ですが、ボランティアなどの何かしらのコミュニティに属しようとするためにも、一歩前に踏み出す力や、失敗を恐れずに挑戦する力などが重要だと思うので、卒業までの後半期間で更に伸ばしていきたいです。
(長崎外国語大学 4年)
- ・講義を聞いて、言語を使って活動していくためには実践的な活動を積極的にやっていくことが大切なんだと感じました。相手がいるからこそ成り立つコミュニケーションなので、自分の持っている情報を共有したり、課題を解決するために共に考えたりしながら、持続的な相互交流をしていきたいと思いました。その中で、言語を上手く利用していくことが大切なんだと思いました。今後は、現在参加しているインターンシップやボランティアの中で、積極的に通訳の実践を行えるよう、日々の学習を進めていこうと思います。
(名古屋外国語大学 1年)

9/8(木)	ボランティア活動に必要なおもてなしの心とは
講師	神田外語大学キャリア教育センター客員教授 筑波大学客員教授 江上いずみ

参加者課題『講義レポート』より	※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります
<p>・私は、海外の文化や習慣を学びたいと考えていましたが、今回の江上さんの講義を聞いて日本の礼儀や習慣をあまり知らなかったことに気づきました。スーツの着方やノックの仕方などを知らなかったら、将来大人になって恥をかいてしまうなと思い、普段から心がけようと思いました。また、デジタル化に伴い人との会話が減っている中、店員やバスの運転手に何も声をかけないことが自然だと感じていましたが、一言でもありがとうなどの声をかけることの大切さをこの講義を通して気づくことができ、普段から心がけようと思うようになりました。</p> <p>(関西外国語大学 1年)</p> <p>・江上先生の講座は、主にマナーやおもてなしの心構えについてでしたが、どれも当然のようで当然ではなく、知らなかったことだらけでした。接客の時、就職活動の時などの特定の場面で使うことができるマナーだけでなく、By nameの効果やアイコンタクトのマナーなど、本当に今からでも実践できるマナーも知ることができて、ほんとに勉強になりました。ご家族や江上様の後輩方のお話も面白く印象深かったのですが、やはり最後の機内アナウンス風のご挨拶がとても印象的でした。とても素晴らしい講義でした。</p> <p>(関西外国語大学 1年)</p> <p>・私は将来航空関係の仕事に就いて海外のお客様におもてなしを提供したいと考えているので、この講義がとても役立ちました。特に印象に残っているのは日本で使われているジェスチャーと海外で使われているジェスチャーの意味の違いです。日本にとってはいい意味でも、外国で使うと侮辱を意味するものもあると聞いて驚きました。大学では外国に触れる機会が多くあるのでしっかり学ぼうと思いました。</p> <p>(神田外語大学 1年)</p> <p>・言葉ひとつで、相手を感じる気持ちは全然違うということが分かりました。また、海外ではいけないハンドサインや握手など、日本での当たり前を海外に行ったときにしてしまわないように、しっかり国について知ること、文化を知ることが大切だと分かりました。講義の最後の機内アナウンスは、おもてなしそのものだなと思いました。疲れも一気に飛んで、これがおもてなしなのだ、実感することが出来ました。</p> <p>(京都外国語大学 1年)</p> <p>・対応とおもてなしは全く別のものである。ある人の一番が他の人の一番ではない。その人をよく観察することで何を必要としているのかが見えてくる。相手の気持ちを想像し、言葉をかけることが大切である。第一声が大切なので、最初の一言で相手に寄り添う。お客様の立場であっても感謝の気持ちを伝えることが大切である。</p> <p>(神戸市外国語大学 1年)</p> <p>・日本のおもてなし文化は世界で有名ですが、おもてなしの心やその作法を自分事として考えたことがありませんでした。江上先生の講義は、意外と知らなかったグローバルマナーについて知るととても良い機会になりました。おもてなしとは相手に喜んでもらうために心を尽くすことだが、おもてなしの仕方は人によって異なるという先生の言葉が印象に残っています。おもてなしというのは決して一律でなく、相手をよく観察して相手にとって一番は何かということを考えて上で接することの重要性を教えてくださいました。講義の最後のおもてなし航空では、江上先生に暖かい言葉をかけていただき、とても嬉しかったです。正しいグローバルマナーを身につけ、私も先生のように人のことを思いやれる人になりたいと思いました。</p> <p>(東京外国語大学 2年)</p> <p>・この講義は、最も印象に残っている講義のひとつです。ボランティア活動のみならず就活や社会のマナーとして学んだことを活用できると感じました。基本的な身だしなみやマナーに加え、具体的な言動にも気を遣う必要があると感じました。普段の生活の中で家族や友達に対してこのようなことを気遣うことはなかなか難しいですが、就活やボランティアの体験を通して、徐々にスキルアップしていきたいと感じました。</p> <p>(名古屋外国語大学 4年)</p>	

9/9(金)	通訳ボランティア経験から考えるキャリア形成とは
講師	<p>経営者英語塾 プロイングリッシュ代表 新条正恵</p>

参加者課題『講義レポート』より ※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

・キャリア形成に必要なことは、自分から主体的に動くこと、「なんとなく」で良いということが、お話の中で分かりました。また、明確なビジョンを持つこと、人脈と正しい情報を得ること、行動することが大事であると学びました。ゴールは目標、ビジョンは未来像といった、ゴールとビジョンの違いについても学びました。どんなに小さなことでもいいから、行動につなげるということも、講義の中でした。これからの将来のために、覚えておきたいと感じました。

(関西外国語大学 4年)

・自分の将来を考える時に、行動することと人脈と正しい情報を得ることはすでに意識していたことだったのですが、それに加えて明確なビジョンを持つこともキャリア形成に必要なことを学びました。そのビジョンというのが私が思っていたよりもずっと細かくて、どんな人たちとどんな感情で、といったことも含まれていておもしろかったです。ゴールだけ考えているとそれを達成した時に次の行動に困るというのは想像もしていなかったため、今回実際に経験した方からのアドバイスがもらえてとてもいい機会になりました。やろうかやらないか迷うくらいなら全部やってみようと思わせる説得力のあるお話を聞いて、すごく勇気付けられました。5年後と10年後のビジョンを実現するために毎日少しずつ決めたことをその日中にすぐ行動に移すということをやっていると思います。

(関西外国語大学 1年)

「考えるだけでなくどんなに小さいことでもいいから自分から行動する」という言葉が印象に残りました。私は行動せずに考えるだけで終わってしまうことが多いので、考えて迷ったら、この言葉を思い出してどんなに小さくてもいいから行動したいです。また、自分の将来の夢の通訳をしている方を見つけて正しい情報を入手したいと思いました。

(神田外語大学 1年)

今の時代では、キャリア形成は自分で主体的に考えなければならない。キャリア形成に必要なことは大きく三つあった。1つ目は「明確なビジョンを持つ」という事だ。ビジョンとは、目標に達したときに見える未来のことである。例えばその目標を達成した時、誰と知り合っているか、何をしているか、どんな人脈を作っているかなどだ。2つ目は「人脈と正しい情報を得ること」だ。人脈とは興味があることを体験したことが有る人や同じものが好きな人に囲まれているようなこと。そして、お金では買えない宝物のような人とのつながりである。最後に、3つ目に大切なのは「行動する」ことである。ビジョンを定めたら、どんな人と出会えばいいかわかるので色んな経験を積むため、まずは行動してみることが大切である。やるかやらないか迷ったときはとりあえずやってみる。

(京都外国語大学 2年)

・新条先生の講義を聞いて変わったのは、自分から積極的に動きたくなったということです。大学生になってから、挑戦することをあまりしていないということに気づきました。「自分の仕事を自分で作る」という言葉にも衝撃を受けました。この言葉を聞いた私は確かにそうだなと思いました。与えられた仕事をこなすだけではやりがいがないしなかなか積極的になれないと自分の経験からも感じたからです。今就活をしていて目の前の事しか考えていなかったのですが、何十年か先のビジョンも見据えて就職活動をしていくべきだなと思いました。

(神戸市外国語大学 3年)

・キャリア形成には自分がどういう働き方をしたいのか自分でしっかり考えることが必要だと教わった。明確なビジョン(目標を達成したときに見えるであろう景色)を持ち、どんな小さいことでも行動し、人脈と正しい情報を得ることがキャリア形成において大きな役割を果たすと知り、やはり積極性が大切なのだと再認識した。最後に自分の5年後、10年後の姿を書き出すという試みが行われたが、これはキャリア形成がまだまだ先のことだと思っていた自分にとって将来について考えるきっかけとなりとても意味のある経験となった。

(東京外国語大学 1年)

・新条さんの話を聞いてキャリア形成にとって重要なことを3つ教えてもらいましたが、特に私にとって3つ目の「とにかく行動する」というのができていないと感じました。新条さんは留学など積極的に様々な経験をしていらっやっやっ、またスタバでのお話もとても素晴らしかったです。行動する前から悩んでいつも何もアクションを起こさないタイプなので自分がどんな仕事につきたいのか、そして、その後どうするかなど自分の将来についてよく考え、まずその職場の人からお話を聞いてみるというのもいいなと感じました。また、早いうちに自分の興味のあることについてもっと調べてみようと思いました。

(名古屋外国語大学 1年)

5. セミナーの様子(写真)



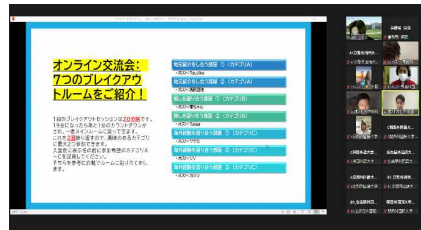
←1日目:
日本財団ボ
ランティアセ
ンターによる



←2日目:
江上先生に
よるおもてな
しについて



←3日目:
新条先生に
よるキャリア
形成に関す



←3日目:
オンライン学
生交流会の
風景

【講義最終日・閉講式後の集合写真】



《まとめレポート内容》

- 1) セミナーに対して前向きに取り組むことができたか
- 2) セミナーを受講してから自己評価について(自分の成果と課題)
- 3) セミナーにて学んだことを今後、どう生かしたいか(展望)

1) 私は、以前から英語を使った活動が何よりの自分の喜びにつながると考え、通訳ボランティアはまさに自分に合ったものだと思います。技術面、心構え、活動後の自分など包括的に学ぶことができ、通訳ボランティアだけでなく、交流の仕方や人生の捉え方まで振り返ることが出来ました。また、セミナーやオフ会で、他の参加者と交流する中で、様々な経緯でこの場に集っていることが分かり大変刺激的でした。それぞれのバックグラウンドを持ったメンバーが、1つのミッションに向けて協働するというのを短い会話の中で感じる事が出来ました。

2) セミナー受講後、真っ先に通訳案内のアルバイトの申し込みをしました。まずは経験のある人を見ることから始めるというのが第一ステップとしてセミナー中であげたものだったからです。結果はまだですが、行動を起こすきっかけを頂くことができました。また、なかなか会えていない留学生の友達に連絡をしたり、英語の勉強に身が入ったり心境の変化も大きかったです。これも、第一線で活躍するプロフェッショナルの方々のお話を聞いたからだだと思います。

3) 今後も、セミナーでの出会いや学びを胸に、英語を使った活動を通した実践的な行動や、自分の価値観も他者の価値観も尊重する「おもてなし」の心を日常的に取り入れ、外国語大学出身として胸を張って生活していきたいです。
(東京外国語大学・4年)